

米国トランプ政権のシリア攻撃に抗議する（談話）

2017年4月7日

安保破棄中央実行委員会

事務局長 東森英男

米国のトランプ政権は、本日、シリアの空軍施設に対して59発のミサイル攻撃をおこないません。

シリアでは、化学兵器が使われたとみられる攻撃で多数の犠牲者が出ており、その真相究明が国際的課題となる中での、一方的軍事攻撃は断じて認められません。

トランプ大統領は会見で「米国が正義のために戦う限り、最後には平和と調和が勝利すると信じる」などと述べ、軍事覇権主義の立場を表明しています。しかし、米国の軍事攻撃によってシリアの内戦が収束するなどということは何人をも納得させることはできません。

安倍首相は7日午後、米国のシリア攻撃について「化学兵器の拡散と使用を絶対に許さないとの米国政府の決意を支持する。事態の深刻化を防ぐ措置と理解している」と述べました。これは、手続きも道理も検証せず、トランプ政権に無批判に追随するものであり、許されません。

私たちは、今回の米国の軍事攻撃に強く抗議するとともに、日本政府が米国に対して、国連憲章と国際法に則った行動を求めるよう強く要求します。

以上